

I 2012 年度認証評価 努力課題課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

II 2015 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

グローバル教養学部では、その名の通り、幅広い教養を身に付け国際社会で活躍する「グローバル人材の育成」を目指し、英語イマージョン教育と少人数双方向教育を推進している。学部設立当初から、小規模学部の特色を活かしたカリキュラムやきめ細かな学生への対応を実践していることは高く評価できる。

とりわけ今年度から学部定員が大幅に増加し、教育課程や学部運営に影響を及ぼしかねない状況になっているが、教育の質を維持できるよう対策を講じている。その一環として、今年度は授業科目の増設や新設を手がけ、さらに来年度に向けて抜本的なカリキュラム改革を行うために着々と準備が進められている点は評価できる。従来の当学部の理念、目的に沿った教育成果が上げられるよう、今後もよりいっそうの努力を続けられることを期待したい。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

2015 年度に受け入れ人数が大幅に拡大したことから、学部の教育の柱である英語イマージョン教育と少人数双方向教育による教育の質を維持・向上させることを目指しカリキュラム改革を行った。主な変更は以下の 5 点である。①4 つあった科目群を 5 つに増やし、科目数を増やした。②入学時の学生の英語力に応じて英語スキル必修科目を設定した。③英語スキル必修科目に関しては共通のシラバスを作成し、担当教員による教育内容の差を無くした。④専門科目の入門科目（100 番台レベル）と中級科目（200 番台レベル）では、選択必修科目を設けることで学際教育の基盤を固めた。⑤新規ゼミを 3 つ増設した。これらのカリキュラム改革により、国際社会に必要な教養と学術的知識を英語で広く深く学べる環境が整った。

III 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教員像および教員組織の編制方針】（2011 年度自己点検・評価報告書より）

学部の理念・目標の理解に基づいて教育と研究に専心し、高い倫理観と愛情を持って学生を育成し、大学の発展に貢献する教員を求める。学生は、本学部のディプロマ・ポリシーに従い、グローバル研究の理念のもとに、問題を発見し解決する能力、世界基準の議論に精通し意見を発信する能力、異文化・多文化に対する深い理解、そして英語の高いコミュニケーション能力を修得し、「学士（国際教養学）」の学位を授与される。したがって編制方針に添い具体的に教員に期待されるものは、1. 英語を教授言語とすること 2. 各自の専門研究の深化とともに、各領域を超えて学際的視野で、客観的かつ柔軟な発想で研究対象を捉え学生に教えること 3. 少人数編成のクラスでの教育、学生とのコミュニケーションに対応できることである。

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

・新規教員採用募集要項および昇格に関する規定

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・教授会執行部 3 名（学部長 1 名、教授会主任 1 名、教授会副主任 1 名）
- ・カリキュラム&FD 委員会（カリキュラム委員長 1 名、執行部 3 名、その他専任教員 3 名）
- ・質保証委員会（委員長 1 名、その他専任教員 1 名、執行部 3 名）
- ・必修英語科目連絡委員（1 名）：必修英語科目の総括、非常勤講師との定期的な連絡及びサポートを行う。
- ・自己学習支援委員（2 名）：GPA や取得単位数が極端に低い学生との面談・サポートを行う。
- ・Overseas Academic Study Program 委員会（2 名）：学部内の留学制度に関する支援を行う。
- ・教授会（原則として月 2 回）

・FDワークショップ：2016年度は春学期と秋学期にそれぞれ1回ずつ行う予定であり、担当教員にはすでに依頼済みである。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・2016年度GIS各種委員表

③教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。 はい いいえ

(～400字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。
 当学部には大学院が設置されていないが、教員組織は大学院進学を希望する学生に対応できるように編成されており、すでに実績が出ている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・法政大学学術研究データベース（教員紹介）
 ・学部パンフレット

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 はい いいえ

(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。
 当学部のリベラルアーツ教育に相応しい教員組織を備えている。4つの科目群にそれぞれ2～4名の専任教員を配置している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・法政大学学術研究データベース（教員紹介）
 ・学部パンフレット

2015年度専任教員数一覧 (2015年5月1日現在)

| 学部（学科） | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 合計 | 設置基準上 必要専任教 員数 | うち教授数 |
|--------|----|-----|----|----|----|----------------------|-------|
| GIS | 6 | 7 | 1 | 2 | 16 | 10 | 5 |

専任教員1人あたりの学生数（2015年5月1日現在）：18.3人

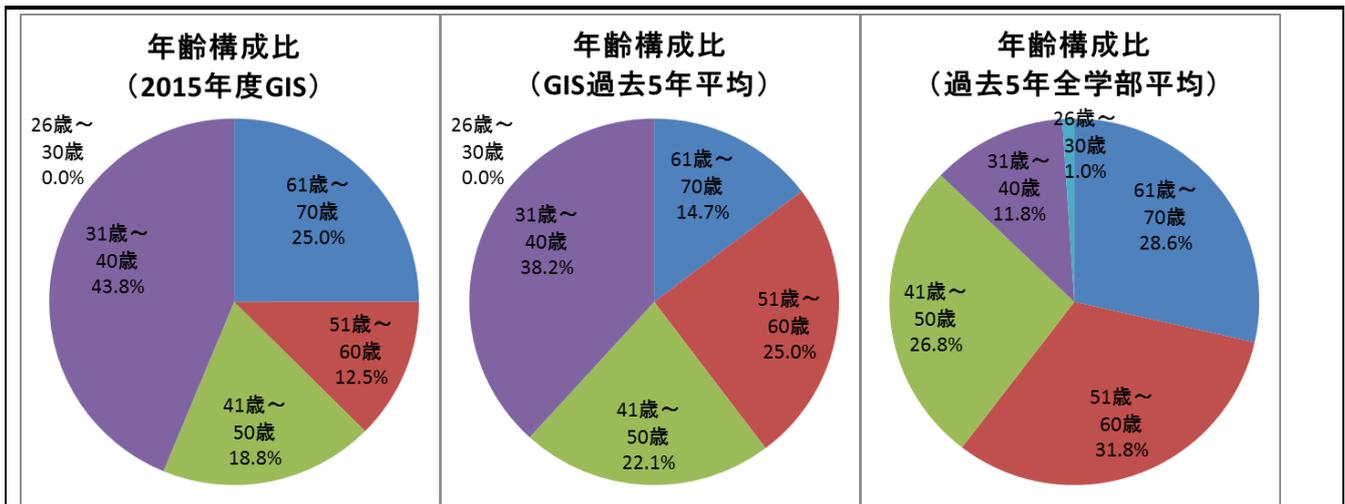
②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 はい いいえ

【特記事項】(～200字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。
 40～50代の中堅層がやや少なく見えるものの、30代後半の教員が複数名いるため、近年中にはより均等な配分になると考えられる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・特になし

年齢構成一覧 (2015年5月1日現在)

| 年度\年齢 | 26～30歳 | 31～40歳 | 41～50歳 | 51～60歳 | 61～70歳 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 2015 | 0人 | 7人 | 3人 | 2人 | 4人 |
| | 0.0% | 43.8% | 18.8% | 12.5% | 25.0% |



1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・新規教員採用募集要項
- ・グローバル教養学部教員昇格に関する内規

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することでも可。

- ・募集採用は原則国際公募である。人事採用の手続きは、学部長の発議→人事委員会→候補者の選定→資格審査→教授会での投票、の手續きを経て行われている。
- ・兼任教員も原則公募で行っている。手續きは、カリキュラム委員会が科目を決定し、候補者の選定を行い、教授会で承認を得る。
- ・昇格は、学部長の発議→人事委員会による資格審査→人事委員会の推薦→教授会での承認、の手續きを経て行われている。

1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

A B C

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・カリキュラム・FD委員会

【2015年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・FDワークショップ(11月18日、GIS学部長室にて John Melvin 助教によるプレゼンテーション “Getting the most out of group work” に続き、参加者全員でディスカッションを行った。助教を含む専任教員全員が参加した。)
- ・授業相互参観(春学期に3回、秋学期に4回行った。執行部が若手教員や新任の兼任教員の授業参観を行い、教授会で報告するとともに、担当教員にフィードバックを行った)

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・FDワークショップ配布資料
- ・授業相互参観報告書(第6回教授会議事録、回覧資料3)

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|---|---------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・新任の兼任教員には、それぞれ専任教員をコーディネーターとして割り当て、授業の運営や学生への対応に関するサポートを行うこととした。3月23日に懇談会を行い、学部の教育理念や授業運営に関して説明し、コーディネーターとの顔合わせを行った。 | 1.4① |
| <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムでは、必修英語スキル科目の共通のシラバスを作成したが、これに沿った授業を展開してもらえるよう、これらの科目を担当する兼任教員を集め、1月13日に懇談会を行った。 | 1.4① |

| | |
|---|-----------|
| ・必修英語スキル科目の総括および連絡係として、一人の専任教員を置くこととした。 | 1.1②、1.4① |
|---|-----------|

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・今年度中に SGU 枠の新たな助教の採用を行う。適任者を選抜できるよう、早めに人事委員会を立ち上げ、議論を始める。 ・授業相互参観は、専任教員全員が参観可能であるが、実際は執行部が行っている。カリキュラム委員会などの関連のある委員にも積極的に参観を促し、参観する側・される側の双方が学べるシステムの導入を検討している。 ・学部の FD セミナーは春学期と秋学期の計 2 回を行うことを検討している。 |
|--|

【この基準の大学評価】

| |
|--|
| <p>グローバル教養学部は、幅広い教養を身に付け国際社会で活躍する「グローバル人材の育成」を目指し、英語イマージョン教育と少人数双方向教育を推進してきた。このような教育を行うために必要な教員の能力・資質を確保するため、新任教員の採用は原則国際公募とするとあり、極めて高いグローバル性を教員人事に求めていることは高く評価できる。また任用後のケアも適切に行われていると判断できる。</p> <p>コンパクトな教員組織ながら適切な委員会構成がなされており、教育を実施する上において必要な役割分担と責任の所在の明確化がなされている。グローバル教養学部には大学院がないため大学院教育との直接的な連携はないが、個々の進学希望者への対応はきめ細やかになされている。</p> <p>教員の年齢構成は適切である。また教員の任用、任免、昇格に関わる規程は整備され、適切に行われている。新任の兼任教員には専任教員をコーディネーターとして割り当て、授業の運営や学生への対応に関するサポートを行うことをはじめ、教育の質を高めるための FD 活動も適切に行われている。</p> |
|--|

2 教育課程・教育内容

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

| |
|---|
| <p>【教育課程の編成・実施方針】</p> <p>本学部の教育目標は、豊かな教養と識見を背景に、高度な英語運用力を持ち、グローバル化した多様な問題に対応できる人材の育成である。この理念実現のため、カリキュラムは以下の 4 点に沿って編成されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語イマージョン教育：英語が 80 を超える国と地域の公用語であり、また政治、ビジネス、学術の分野では、事実上の世界共通語となっている現状を踏まえ、原則すべての授業を英語で行う。 2. 学際教育：刻々変貌する現代社会の問題系を既存分野の枠組みに拘らず、学際的視座で領域横断的に捉える。また、旧来の一般教養科目と専門科目の区別も設けず、両者を融合したカリキュラムにより、自由な発想と思考力を伸ばす。 3. 少人数教育：プレゼンテーションやディスカッションを中心とした、10 名から 20 名程度の徹底した少人数編成の授業を行い、学生一人一人の能力、適性、ニーズに合わせたきめ細かな指導を行う。 4. 英語教職課程の併設：真に国際感覚を持った「英語で授業ができる英語教師」の育成を目指す。 |
|---|

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

| | |
|---|-------|
| ①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。 | A B C |
| <p>(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。2016 年度からの新カリキュラムで以下の改革をおこなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 科目群 (Arts, Literature, and Culture; Linguistics and English Education; Society and Identity; International Relations and Economy) を 5 科目群 (Arts and Literature; Linguistics and Language Acquisition; Culture and Society; International Relations and Governance; Business and Economy) に編成しなおし、グローバル教養に相応しいカリキュラムを整えた。全ての科目群で科目数を増やすことで、学際教育と少人数教育の両方を維持している。 ・100 番台・200 番台レベルそれぞれにおいて選択必修科目を設け、各科目群から 2 単位以上履修することを学生に課した。学生は幅広いリベラルアーツの基礎の習得した上で、より専門性の高い上級科目を履修することができる。 ・入学時の学生の英語能力に応じ、英語の必修科目を設定し、且つ、スコアが比較的低い学生により多くの必修科目を設け、英語スキル教育にも体系性と順次性をもたせた。 ・従来通り、全ての科目に 100～400 番台のナンバリングを行っており、200 番台以上の中・上級科目に関して、事前の学習が必要なものはシラバスに prerequisites を明記している。 | |

| | |
|---|--|
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIS カリキュラム表 ・GIS Syllabus 2016 ・2016 年度 GIS 履修の手引き | |
| <p>②幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。</p> | <p style="text-align: center;">A B C</p> |
| <p>(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部のカリキュラム全体が幅広く深い教養及び総合的な判断力を培うことを目的としている。これまでも多様な科目を柔軟に履修することを学生に促していたが、1-2 年次から特定の分野に偏った履修をする学生もいたことから、新カリキュラムでは 100、200 番台に選択必修科目を設け、5 科目群からそれぞれのレベルで 2 単位以上を履修することを課した。 ・3-4 年次のゼミを新たに 3 つ(Culture and Globalization; Global Strategic Management; Entrepreneurship and Innovation)開講し、ゼミ数は 12 となった。ゼミでは専門性の高い研究を行い、学術能力を高めるだけでなく、様々な共同作業を通じた豊かな人間性の涵養が可能である。 ・従来どおり、学部独自の留学制度 Overseas Academic Study Program (OAS) も国際社会で活躍するために不可欠な教養と人間性の育成に貢献している。 | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIS カリキュラム表 ・GIS Syllabus 2016 ・2016 年度 GIS 履修の手引き ・OAS pamphlet | |
| <p>2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p> | |
| <p>①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。</p> | <p style="text-align: center;">A B C</p> |
| <p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>学生の能力を段階的に伸ばせるよう、1-2 年次には基礎科目と総合科目を設置し、学術的なスキルとともに、リベラルアーツに欠かせない重要科目を 5 つの科目群からそれぞれ 4 単位以上 (100 番台、200 番台それぞれ 2 単位以上) 履修させている。2-3 年次は学際教育を実現するため、多分野にわたる科目を設置し、学生の興味に応じてこれらを自由に履修できるようにしている。3-4 年次にはゼミを設置し、大学院進学も可能なまでの専門的な知識および研究能力を習得できるようにしている。研究テーマがゼミの内容と異なる学生に対しては、教員と一対一で論文を執筆する Independent Study and Essay I/II を提供している。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIS カリキュラム表 ・GIS Syllabus 2016 ・2016 年度 GIS 履修の手引き | |
| <p>②初年次教育、キャリア教育は適切に提供されていますか。</p> | <p style="text-align: center;">A B C</p> |
| <p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックな英語力の向上に関しては、カリキュラム改革を行い、初年次教育として Reading, Writing, Debate and Discussion の三技能を伸ばせるようにしている。入学時の TOEFL-ITP スコアに応じ英語スキル科目の履修科目数を設定し、スコアが低めの学生にはより多くの科目 (最大 16 単位) を履修させている。これにより、遅くとも 2 年次の 2 学期目にはアカデミックな論文を読み書きし、発表できるまで英語力を高める。英語スキル科目には共通のシラバスと教科書を設定し、担当教員によるレベルや内容の差が出ないようにしている。 ・100 番台の専門入門科目に関しては、選択必修科目を設けることで、リベラルアーツ教育に特に重要な科目を 5 科目群それぞれから 2 単位ずつ履修させている。また、多くの科目を春学期と秋学期の双方に設置することで、履修の機会を増やしている。 ・キャリア教育に関しては、新たに設けた Business and Economy の科目群の中で、キャリアに関する科目 International Business and Employability を設置している他、従来通り、総合科目としても、Employability Skills I/II、Introduction to Career Design I/II などの科目を設置している。また、学部内にキャリア支援委員会を設け、キャリアセンターと連携を取りながら学生のサポートを行うほか、キャリアセンターの職員によるゼミ出張ガイダンスも行っている。 | |

・2015年度より、卒業生をHomecomingに招いている(2015年10月4日)。在生もこれに参加することで、OBOGとのネットワークを作る機会を提供している。また、卒業生による講演会も開催し、GISならではの就職の強みや課題などについて在生と話し合う機会を設けている。2015年度は11月27日にPwC(プライスウォーターハウスクーパース、世界四大会計事務所の一つ)、12月4日にNHKに就職した卒業生を招いた。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016年度GIS履修の手引き(学部-6ページ)
- ・GIS Syllabus 2016
- ・卒業生による講演会のチラシ

③学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

A B C

(~400字程度まで)※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

- ・従来通り、本学部のカリキュラムと学部独自の留学制度(Overseas Academic Study Program)にて国際性を涵養している。専任教員2名によるOAS Program委員会とネイティブ1名を含む2名の嘱託職員が留学ガイダンスやサポートを行っている。また、100番台にOAS Preparationという科目を設定し、留学先の教育制度や海外生活の心構えなどについて学ぶ機会を与えている。
- ・派遣留学制度や国際ボランティアにも積極的に参加するよう促している。2016年からは国際ボランティア、国際インターンシップ、短期語学研修も単位認定している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016年度GIS履修の手引き
- ・GIS Syllabus 2016
- ・OAS pamphlet

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|--|-----------|
| ・英語スキル必修科目を再編成し、入学時のTOEFL-ITPスコアに応じて、異なった履修科目数を設定している。 | 2.1①、2.2① |
| ・リベラルアーツ教育を充実させるため、100番台、200番台に選択必修科目を設けた。 | 2.1①、2.2① |
| ・2015年度よりHomecomingを実施し、卒業生と在生のネットワーク作りの機会を設けている。 | 2.2② |
| ・国際ボランティア、国際インターンシップ、短期語学研修も単位認定している。 | 2.2③ |

(3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)~(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・2015年度に実施した卒業生による講演会では、参加者が少なかった。定期的なイベントとして学生に周知することや、全学年を招待するなどの対策を検討している。

・入学時のTOEFL-ITPスコアによってクラス編成を行っているが、学生が試験当日に病気などの理由で欠席してしまった場合や、実力とスコアに大きな乖離が見られた場合の対策を検討する必要がある。

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部では、地域と文化の枠を越えたアプローチによるグローバル研究・教育、既存の学問体系の枠を越えたアプローチによる学際研究・教育を「教養」として学部の理念・目的に謳い、これに応じた幅広く深い教養及び総合的な判断力を培うカリキュラム編成に努め、適切に教育が提供されている。入学時の英語力に応じてクラスを配置するなど、カリキュラムは教育内容に応じて順次性・体系性を配慮しつつ適切に配置されている。カリキュラムを4科目群から5科目群に編成し直し、各群の科目数を増加することで、教育の質を維持、向上させようとしており評価できる。

初年次教育は適切であり、キャリア教育でも改革の跡が伺える。学生の国際性を涵養するため、独自のプログラム(OAS)を設置し、専任教員2名によるOAS Program委員会とネイティブ1名を含む2名の嘱託職員が留学ガイダンスやサポートをきめ細かく行っている。学部長インタビューによるとOAS Program参加者はここ数年15名程度であり、主としてこれまで留学経験がなかった学生が大量かつ質の高いReading Assignmentなどを経験し大きく能力を伸ばしており、高く評価で

きる。

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

| | |
|--|--|
| 3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。 | |
| ①学生の履修指導を適切に行っていますか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C |
| 【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・ 教員による新入生オリエンテーション (2016年4月1日実施) ・ 教員による個別相談 (2016年4月5日実施) ・ 自己学習支援委員による個別面談 (成績の低下や獲得単位数の少ない者に対して毎学期実施。2015年度は春は6月3日、10日、17日、秋は11月11日、18日に実施した)。 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 新入生オリエンテーションの案内 ・ 第1回教授会議事録 (新入生に対する個別相談の報告) ・ 個別相談報告書 (第6回教授会議事録、回覧資料2; 第14回教授会議事録、回覧資料2) | |
| ②学生の学習指導を適切に行っていますか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C |
| (～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 少人数双方教育の特徴を生かし、きめ細やかな学習指導を行っている。授業の前後やオフィスアワーで学生の質問や相談に応じるほか、必要に応じてアポイントメントによる面談も行っている。成績不振や単位数の少ない学生には自己学習支援委員が面談している。留学や教学のサポートは教員だけでなく、ネイティブ1名を含む2名の嘱託職員も対応している。 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 個別相談報告書 (第6回教授会議事録、回覧資料2; 第14回教授会議事録、回覧資料2) ・ OASパンフレット | |
| ③学生の学習時間 (予習・復習) を確保するための方策を行なっていますか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C |
| (～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 少人数双方教育の特徴を生かし、レポート、ディスカッション、プレゼンテーション、グループ・プロジェクトの機会を多く設けている。これらに参加するには関連資料を読む、資料を用意する、など授業時間外での学習が不可欠である。 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ GIS Syllabus 2016 | |
| ④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C |
| 【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入 (取組例: PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等)。 ・ 従来通り、ほぼ全ての授業でディスカッション、プレゼンテーション、校外学習(field study)などのアクティブラーニングを取り入れている。 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ GIS Syllabus 2016 | |
| 3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 | |
| ①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ |
| 【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入 (取組例: 執行部 (〇〇委員会) による全シラバスチェック等)。 ・ カリキュラム委員会による全シラバスチェック。 ・ 必要な場合、内容及び英文表現について講師への修整依頼と再チェック。 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし | |
| ②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ |
| 【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入 (取組例: 後シラバスの作成、授業相互参観、アンケート等)。 ・ 授業相互参観 | |

| | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業評価アンケート ・学生モニター制度 | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観の報告書（第6回教授会議事録、回覧資料3） ・学生モニター報告書（第16回教授会議事録、資料2、回覧資料2） | |
| 3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 | |
| ①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C |
| <p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学部の成績分布表 ・成績調査申請制度 | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第10回教授会議事録、回覧資料5 | |
| ②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ |
| <p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>OAS や派遣留学制度を利用して海外大学で取得した単位は OAS 委員会および執行部で厳正に審査した上で、教授会の了承を経て単位認定を行っている。取得単位はレベルに応じて、Study Abroad: Pre-Academic Course, Study Abroad: Academic Courses 1-3 に振り替えている。入学前の単位認定については、適時、教授会にて審査している。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OAS 単位認定ガイドライン（第9回教授会議事録、回覧資料10） ・第8回教授会議事録、回覧資料5（派遣留学単位認定） ・第1回教授会議事録、回覧資料4；第14回教授会議事録、資料3と回覧資料3（OAS 単位認定） | |
| ③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C |
| <p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスチェックの際に成績評価の基準と内訳について確認している。成績調査の申請があった場合は、担当教員にエビデンスを提出してもらっている。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIS Syllabus 2016 | |
| 3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 | |
| ①教育成果の検証を学部（学科）ごとに定期的に行っていますか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C |
| <p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学生の履修登録状況、履修単位数、GPA の確認（カリキュラム・FD 委員会） ・卒業生アンケート調査（教授会で共有） ・卒業後の進路調査（カリキュラム・FD 委員会） ・TOEFL-ITP(1年目は4月と1月の二回、2年目は4月か1月の一回、および留学帰国直後) ・ゼミでの卒業論文・制作の実施状況調査 | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回教授会議事録、回覧資料1；第2回教授会議事録、資料6；第9回教授会議事録、回覧資料4（TOEFL-ITP 結果） ・第4回教授会議事録、資料3（卒業生進路調査） ・第8回教授会議事録、回覧資料（卒業生アンケート） | |
| ②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C |
| <p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部長が全てのアンケートに目を通し、問題のある教員に対して面談を通し、改善を求めている。 | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第14回教授会議事録 | |

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|--|---------|
| ・学生による授業改善アンケートに学部独自の項目として、英語使用の状況確認の項目を追加した | 3.1② |
| ・教育成果をより詳しく検証するために、卒業生アンケートと同じ内容のアンケートを新入生にも実施している。これにより、入学時と卒業時の意識の向上を検討することができる。 | 3.4① |

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

| |
|--|
| ・カリキュラム委員会による全シラバスチェックは、定員増による新任兼任講師数の急増があったため、確認すべきポイントの共有に不十分な点があり混乱が生じた。兼任教員にはシラバスの依頼をする時点で、シラバスの書き方に関する詳細な手引きを配布し、また、専任教員をコーディネーターとして指名することで、シラバスを提出する前の早い段階で効率的に修正できるように改善する。 |
|--|

【この基準の大学評価】

| |
|---|
| <p>グローバル教養学部では少人数双方向教育の特徴を生かし、教学や留学を含めきめ細かい履修・学習指導を行っている。多くの授業でレポート、ディスカッション、プレゼンテーション、校外学習(field study)、グループ・プロジェクトなどの機会を設け、関連資料を読み、資料を用意するなど、学生の授業外の学習時間を確保するための配慮がなされている。</p> <p>シラバスはカリキュラム委員会によりすべてチェックされ、成績評価はシラバスの記述に基づき適正に行われている。2015年度の定員増に伴い、シラバスチェックに対する確認ポイントの共有不足のため一時的に混乱が生じたことへの反省を生かし、2016年度以降の改善を期待したい。</p> <p>教育成果の検証については、カリキュラム・FD委員会が全学生の履修登録状況、履修単位数およびGPAが確認され、4回に亘るTOEFL-ITPの結果が確認され、さらに教授会で卒業生アンケート調査結果が共有されるなど、適切に行われている。</p> |
|---|

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

| | |
|---|---|
| 【学位授与方針】 | |
| <p>本学の提唱する「グローバル研究」は、多様な文化・社会現象を地球全体が直面している課題、あるいは世界中が経験している変化傾向と捉え、その分析と解決の道を探ることに主眼を置いている。所定の単位を収めた学生には、以下の知識・能力を有していることを前提に、「学士(国際教養学)」の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な問題発見・解決能力：日常の具体的出来事から真の問題点を発見し、それを偏見や先入観にとらわれず整理し、向かうべき方向性を見出す能力。また、固定したものの見方に囚われない、領域横断的な問題分析能力。 2. 地球規模での思考：地球全体が対処すべき諸問題について、最先端の議論に精通し、世界基準のアカウンタビリティを考え得る力。 3. 異文化・多文化の理解：民族や言語、価値観や社会制度を異にする国家・地域・コミュニティに関する正確かつリアルタイムの知識。また、それぞれの固有文化の意義を尊重する姿勢。 4. 英語コミュニケーション能力：相手の論点を的確に理解し、議論に積極的に関わることのできる高度な英語運用力。 | |
| 4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 | |
| ①学生の学習成果を測定していますか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> |
| <p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。</p> <p>カリキュラム・FD委員会では定期的に全学生の履修登録状況、履修単位数、GPAの確認を行っている。また、TOEFL-ITPを用いて英語力の向上を測定している。大学評価室の卒業生アンケートも活用している。</p> | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・全学生の履修登録状況、履修単位数、GPAの確認(カリキュラム・FD委員会) ・卒業生アンケート調査(第8回教授会議事録、回覧資料) ・卒業後の進路調査(第4回教授会議事録、資料3) ・TOEFL-ITP Level 1(1年目は4月と1月の二回、2年目は4月か1月の一回、および留学帰国直後) ・ゼミでの卒業論文・制作の実施状況調査 | |

| | |
|--|---|
| ②成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・ 執行部とカリキュラム委員会で検証した上で、教授会で全教員に周知している。 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 進級・卒業判定名簿（第9回教授会議事録、回覧資料5） | |
| ③学習成果を可視化していますか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> |
| 【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入（取組例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等）。 ・ 全学年のGPA、履修単位数、進級・留級の状態等の一覧表を作成し、教授会で共有している。 ・ 英語力に関しては、TOEFL-ITPをはじめ、学生が各自任意で受けているTOEFL-iBTやTOEICの結果も報告させ、データ化している。 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 進級・卒業判定名簿（第9回教授会議事録、回覧資料5） ・ 履修登録状況（第3回教授会議事録、回覧資料4） | |
| 4.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。 | |
| ①学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・ 卒業生を対象に就職・進学状況を調査している。結果は教授会で共有している。 ・ Homecomingで卒業生にアンケートを行い、転職や大学院進学などの情報を集めている。 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 卒業後の進路調査（第4回教授会議事録、資料3） | |

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究や卒業制作を課しているゼミがほとんどであるが、これらの成果はゼミの中でしか共有されていない。学習成果の可視化をすすめる上で、これらをまず学部内で公表するための方策を検討する必要がある。 |
|--|

【この基準の大学評価】

| |
|--|
| グローバル教養学部では定期的に全学生の履修登録状況、履修単位数、GPAの確認を行い、TOEFL-ITPを用いて英語力の向上を測定するなど、学生の学習成果を学部として把握している。学生が各自任意で受けているTOEFL-iBTやTOEICの結果も報告させ、英語力のブラッシュアップを測定していることは評価できる。学生の成績分布、進級状況、就職・進学状況も適切に把握されている。 |
|--|

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

| |
|---|
| 【学生の受け入れ方針】 グローバルな視座で多様な知見と教養を身につけ、世界の第一線で活躍できる人材の育成こそ、本学部の目指すところである。その目標の達成には、入学者自らがこのような理念の元で組まれたカリキュラムを十分に消化し得る基本的な学力を有し、きめ細かな指導の下で継続的かつ能動的に勉学に励むことが必須条件となる。入学者受け入れにあたっては、基礎学力の有無と勉学習慣を身につけているかを多様な方法で判断する。帰国生や留学生のみを対象とする特別入試は行わないが、海外の教育機関や国内のインターナショナル・スクールなどの出身者が不利とならぬよう、選抜の際には教育 |
|---|

制度・課程の違いについても十分に配慮している。事実、3分の2以上の在籍者が帰国生、外国人学生、留学経験者である。現在の入学経路は、4月入学は(1)一般入試、(2)自己推薦特別入試、(3)指定校推薦入試、(4)付属校推薦入学制度、9月入学は自己推薦特別入試がある。

学部が提供する科目は全て英語で教授されるため、英語に関しては高度な読解力とコミュニケーション能力が求められる。その判断材料として、一般入試においては、難易度の高い「英語S」を学部の独自問題として出題する。また、自己推薦特別入試では、国際的に信頼性の高いTOEFL®やIELTSを始めとする外部英語試験を積極的に活用する一方、英語による面接と小論文試験を課し、総合的な英語力の把握に努める。

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

入学定員の増加に伴い、新たにT入試と英語外部試験一般入試を導入した。また、指定校の見直しも行った。秋入学の受験生を増やすため、7月に行っていた秋学期入試の時期を早めた。また、国内のインターナショナルスクール出身であっても、国際バカロレア取得者(見込者)は、国外選考と同じ扱いとし、筆記試験と面接を免除するなど、受験生の利便性を高めた。国内のインターナショナルスクールに学部パンフレットを送付し、近郊の高校へは複数回訪問し、説明会を行った。また、インターナショナルスクール主催のCollege Fairでも学生や保護者に対し説明を行った。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

定員充足率(2011～2015年度)

(各年度5月1日現在)

| 種別\年度 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 5年平均 |
|---------|------|------|------|------|------|------|
| 入学定員 | 50名 | 50名 | 66名 | 66名 | 100名 | |
| 入学者数 | 49名 | 47名 | 67名 | 71名 | 94名 | |
| 入学定員充足率 | 0.98 | 0.94 | 1.02 | 1.08 | 0.94 | 0.99 |
| 収容定員 | 200名 | 200名 | 216名 | 232名 | 282名 | |
| 在籍学生数 | 204名 | 228名 | 244名 | 248名 | 293名 | |
| 収容定員充足率 | 1.02 | 1.14 | 1.13 | 1.07 | 1.04 | 1.08 |

※秋入学者を含む

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。

A B C

【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。

- ・執行部学生の入学年別・入試経路別のGPAとTOEFLスコアを把握している。
- ・結果は教授会の議論の中で検証され、入試改革、カリキュラム改革等に反映されている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・TOEFL-ITP結果(第1回教授会議事録 回覧資料1; 第2回教授会議事録 資料6; 第9回教授会資料 回覧資料4)

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等(任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・安定した数の秋入学者を受け入れられるよう、海外指定校推薦入試や、国際バカロレア取得者にはTOEFLを免除するなどの対策を検討する必要がある。
- ・文科省および法政大学のグローバル化の方針に添い、秋入学者の入学定員数を計算に入れた上で、春入学者の数を安定的に決定していく必要がある。

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部ではこの5年間の入学定員充足率は定員を満たしていなかったが、学部長インタビューによると、その理由は大幅定員増と2013年度から新設した秋入学者の定員割れによるものであった。そのため2016年度入試から秋入学者の応募時期と入試実施日を前倒しし、春入学と併せ116名が入学した。定員の超過・未充足に対しては、適切に対応している。

単なる語学力だけではなく、「世界の第一線で活躍できる人材育成」を目指し、そのための基礎学力のある学生を受け入れるというグローバル教養学部の姿勢は高く評価できる。入学定員の増加に伴い、一般入試においてT日程入試と英語外部試験利用入試を導入し、国内のインターナショナルスクール出身であっても国際バカロレア資格取得者（見込者）は国外選考と同等に取り扱うなど、学生の募集に対してさまざまな改革を行ったことも高く評価される。

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。

| | |
|--|---|
| ①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| <p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・執行部が事務からの提供データ（履修登録の一覧表）をもとに把握している。 ・休・退学者に関しては教授会を通して全専任教員で情報を共有している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回教授会議事録、回覧資料4；第9回教授会議事録、回覧資料6 | |
| ②成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C |
| <p>【成績不振学生への対応体制および対応内容】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己学習支援委員会が該当する学生に対し、個別面談を行っている。面談の結果は教授会で共有している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談報告書（第6回教授会議事録、回覧資料2；第14回教授会議事録、回覧資料2） | |
| ③学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。 | A <input checked="" type="checkbox"/> B C |
| <p>(～400字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>外国人留学生に特化した支援は行っていないが、履修登録の相談や教科に関する相談には適切に応じている。教員、事務、資料室すべてにおいて対応可能である。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし | |

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

| |
|-------|
| ・特になし |
|-------|

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部では休・退学者に関しては教授会全体で情報を共有するなど、学生支援への対応策は適切に講じられている。自己学習支援委員会が、成績不振学生に個別面談を行い適切な助言がなされていること、外国人留学生に特化した支援は行っていないが履修登録の相談や教科に関する相談には適切に応じていること、相談者のニーズに合わせて英語と日本語を併用していることは、それぞれ評価できる。

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2015年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

- ・質保証委員会委員長1名と執行部3名
- ・計3回行った（4月8日、4月22日、2月24日）。これ以外にも常にメールにて情報交換を行っている。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|---|---------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・これまでは質保証委員会は委員長1名と執行部であったが、PDCAのCの機能をより明確にするため、2016年度からは委員長の他に専任教員1名を委員に加えた。 ・質保証に関する議論を執行部で行うことが多いが、執行部会議と質保証委員会を分けて行うようにする。 | 7.1① |

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部の質保証委員会は委員長1名と執行部3名から構成されており、客観性が担保される構成になっているかが課題であったが、2015年度中にこの問題を検討し、2016年度から執行部以外の専任教員を加えるとしたことは評価できる。

【大学評価総評】

グローバル教養学部では、幅広い教養を身に付け国際社会で活躍する「グローバル人材の育成」を目指し、英語イマージョン教育と少人数双方向教育を推進してきたことは、高く評価されてきた。

2015年度から学生定員を66名から100名に増やしたことを受け、グローバル教養学部は授業科目の増設や新設を伴うカリキュラム改革や学生の募集方法の多様化など、様々な対応策を講じた。その結果、グローバル教養学部の規模が拡大された後も教育の質が適切に順守され、さらに成果を上げ発展を遂げているかどうかについて、今後の検証が求められる。

グローバル教養学部の理念・目的に沿い、高い教育成果を挙げるために、今後も弛まぬ努力を継続されることを期待したい。